

雌株には小さいバナナのような実

カツラ

カツラ科カツラ属

落葉高木。冷温帯に自生する溪谷沿いなど湿った場所が好きな樹種ですが、北国では公園などの植栽も多いです。葉は丸いハート形でとても可愛らしいです。カツラは対生する短枝に葉が一枚ずつつき、そこから伸びた長枝では葉が対生します。秋には黄葉し、陽が差すと黄金色に輝いてたいへん美しいです。カツラは秋に甘い香りがすることで有名ですが、香りは新鮮な葉からは匂わず、乾燥した落ち葉から放出される「マルトール」という香気成分によります。香る葉は、昔から「抹香」として利用され、名の由来も「香出（かづ）る」が転訛したものだと言われています。

春、葉が出る前に花が咲きます。雌雄異株で、花被がない紅色の多数の雄しべをもった雄花、数個の雌しべが苞に包まれた雌花をつけます。雌花は受粉すると小さなバナナのような袋果になり、翼をもった種子が沢山入っていて、熟すと割れて風散布されます。実の殻は冬になっても残っています。

材は、均質で変形しにくいことから、家具や楽器、彫刻、碁盤、将棋盤として幅広く利用されています。



カツラ葉 (×1)



カツラ葉 (×1)



【夏の様子】 2022.8.23



【雄花】 2024.4.10



【雌花】 2024.4.10

【残った実の殻】 2025.1.17



【若い実】 2024.8.3



【新緑】 2024.5.8



【黄葉】 2022.9.30



【甘い匂いの乾いた落ち葉】 2024.10.22